

# 下中城遺跡

2020年

日田市教育委員会



調査地全景（北西から）



## 序 文

日田市は、北部九州のほぼ中央、大分県の西部に位置し、周囲を山々に囲まれ、そこからの豊富な水が清流となり、市の中心となる日田盆地を潤しております。この水が澄んでいることが「水郷日田」と呼ばれる所以であります。

こういった自然豊かな環境は、人々が生活する上で適していたとみえ、日田盆地では原始・古代・中世はもとより、近世の人々の痕跡を示す遺跡が、絶え間なく、そして多く確認されております。

さて、本書は、病院建設工事に伴って日田市教育委員会が実施した下中城遺跡の内容をまとめたものです。

下中城遺跡は、日田盆地中央、標高 80m 前後の花月川左岸沖積地の微高地に所在しています。

調査では、弥生時代後期の竪穴住居と中世の時期とみられる柱穴列などが確認され、当時の調査地及びその周辺の様子を考える上で貴重な資料を得ることが出来ました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に協力いただきました医療法人鶴陽会岩尾病院をはじめ、関係者の方々、作業に従事していただきました皆様方に対しまして厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

日田市教育委員会

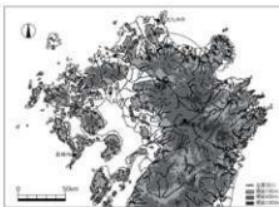
教育長 三筈 真治郎

# 例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成29年度に実施した下中城跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は病院建設工事に伴い、医療法人鶴陽会岩尾病院の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査現場での実測、写真撮影は株式会社理藏文化財サポートシステム大分支店に委託した。
4. 本書に掲載した遺構図、遺物実測及び遺物写真撮影は、株式会社九州文化財総合研究所に委託した。
5. 採囲中の方位は全て方眼北を示し、国上座標は世界測地系に基づいている。
6. 写真団版の遺物に付した数字番号は、全て採囲番号に対応する。
7. 出土遺物及び図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
8. 本書の執筆・編集は上原が行った。

## 本文目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| I 調査に至る経過と組織           |    |
| (1) 調査の経過              | 1  |
| (2) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変遷について | 1  |
| (3) 調査組織               | 1  |
| II 遺跡の立地と環境            | 2  |
| III 調査の記録              |    |
| (1) 調査の概要              | 3  |
| (2) 遺構と遺物              | 5  |
| IV まとめ                 | 12 |



日田市の位置



大分県の行政地区

## 挿図目次

|   |    |
|---|----|
| 第1図 周辺遺跡分布図 (1/15,000)                      | 2  |
| 第2図 調査地配置図 (1/600)                          | 3  |
| 第3図 調査地全体図及び東壁、南壁上層図 (1/150)                | 4  |
| 第4図 1号竪穴建物実測図 (1/60)                        | 5  |
| 第5図 2号竪穴建物実測図 (1/60)                        | 6  |
| 第6図 2号竪穴建物出土遺物実測図 (1/4)                     | 7  |
| 第7図 3号竪穴建物実測図 (1/60) 及び出土遺物実測図 (1/4)        | 8  |
| 第8図 1号柱穴列実測図 (1/60) 及び出土遺物実測図 (1/4)         | 8  |
| 第9図 2号柱穴列実測図 (1/60)                         | 9  |
| 第10図 溝状構造実測図 (1/80) 及び出土遺物実測図 (1/4)         | 9  |
| 第11図 ピット・輪出時出土遺物実測図 (1~4:1/4, 5:1/3, 6:2/3) | 10 |
| 第12図 遺構変遷図 (1/200)                          | 12 |

## 本文写真目次

|              |    |
|--------------|----|
| 写真1 作業風景     | 1  |
| 写真2 測量風景     | 1  |
| 表 目次         |    |
| 第1表 調査出土土器観察 | 10 |
| 第2表 調査石製品観察表 | 11 |

## 写真団版目次

|                     |  |
|---------------------|--|
| 写真団版 1              |  |
| 上 調査地全景 (西から)       |  |
| 中 1号竪穴建物発掘状況 (北から)  |  |
| 下 1号竪穴建物発掘状況 (東から)  |  |
| 写真団版 2              |  |
| 上 2号竪穴建物発掘状況 (北から)  |  |
| 中 2号竪穴建物発掘状況 (南から)  |  |
| 下 2号竪穴建物遺物出土状況      |  |
| 写真団版 3              |  |
| 上 3号竪穴建物発掘状況 (南から)  |  |
| 中 1号柱穴列発掘状況 (北から)   |  |
| 下 1号柱穴列発掘状況 (東から)   |  |
| 写真団版 4              |  |
| 上 1号柱穴列西側上層断面 (南から) |  |
| 中 1号柱穴列西側遺物出土状況     |  |
| 下 2号柱穴列発掘状況 (北から)   |  |
| 写真団版 5              |  |
| 上 溝状構造発掘状況 (北から)    |  |
| 中 調査地南壁上層           |  |
| 下 調査地東壁上層           |  |
| 写真団版 6              |  |
| 出土遺物                |  |

## I 調査に至る経過と組織

### (1) 調査の経過

平成 28 年 7 月 4 日付けで医療法人鶴陽会岩尾病院（以下、鶴陽会）より日田市教育委員会教育長三苦眞治郎（以下、教育委員会）あてに、淡窓 2 丁目 300-1 ほか 11 筆について病院建設工事に先立つ埋蔵文化財の所在に関する照会文書が提出された。この開発予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である城下町遺跡に該当し、その取扱いについて協議が必要である旨の文書回答を同年 7 月 7 日に行った。その後、鶴陽会より教育委員会へ同年 7 月 14 日に予備調査依頼が提出され、これを受けて教育委員会は同年 8 月 4 ~ 9 日に重機と作業員による予備調査を実施した。

予備調査の結果、4 本のトレンチ（3 ページ第 2 図参照）のうち対象地南東側に設定した 1・2 トレンチでは、地表面から約 30 ~ 50 cm の深さで堅穴建物、溝状遺構、土坑が確認され、遺跡の存在が明らかとなった。なお、対象地の北側から西側にかけて設定した 3 トレンチでは、礫層が検出され、遺構は確認されなかった。

そこで、教育委員会は、この調査結果を元に鶴陽会と協議を重ね、建物基礎によって掘削が及ぶ範囲（調査面積：約 416 m<sup>2</sup>）を中心として発掘調査を行うこととなり、平成 29 年 6 月 21 日に鶴陽会との委託契約を取り交わし、同年 6 月 27 日から 9 月 4 日までの間、発掘調査を実施した。また平成 30 年 6 月 4 日から 6 月 28 日の間、整理作業を実施し、平成 31 年度に報告書作成を行った。

現地での発掘調査及び整理作業の経過は次のとおりである。

平成 29 年 6 月 27 日 草刈及び機材搬入を開始

7 月 3 日 表土除去を開始

7 月 11 日 遺構検出を開始

7 月 20 日 遺構掘下げ開始

8 月 24 日 調査地全景写真を撮影

8 月 31 日 埋め戻し開始

9 月 4 日 現地での作業完了

平成 30 年 6 月 4 日 整理作業を開始

6 月 28 日 整理作業を終了

### (2) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変遷

調査地は、予備調査を実施した時点では、城下町遺跡に該当していたが、周辺の予備調査の結果から、平成 28 年 9 月 8 日付で周知遺跡の範囲変更を行い、本調査時には日田条里遺跡下中城地区として調査を行っている。その後、本調査結果を元に平成 31 年 9 月 24 日に遺跡の新規登録を行い、本報告では、下中城遺跡としている。

### (3) 調査組織

平成 29 ~ 31 年度の調査組織は次のとおりである。

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 三苦眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査統括 梶原康弘（文化財保護課長：平成 29 ~ 30 年度）、宮本達美（同課長：平成 31 年度）

調査事務 古賀信一（同埋蔵文化財係主幹（総括）/ 平成 29 年度）、安岡佳克（同主幹（総括）：平成 30 ~ 31 年度）、河津秀樹（同主幹：平成 31 年 7 月）、今田秀樹（同主査：平成 30 年度）、行時桂子（同主査）、若杉竜太（同主査：平成 29 ~ 30 年度）、渡邉隆行（同主査：平成 29 年度）、長祐一郎（同主査）

調査員 上原翔平（同主任・同主査：平成 31 年度）

発掘作業員 小野昭宣、河津モリ、北澤幾子、合原建國美、財津真弓、坂本隆、坂本由紀子、佐藤継信、谷口なつ子、長谷部修一、松下宣男、森山敬一郎、和田征二

整理作業員 立川幸子、千原加代子、吉田里美



写真 1 作業風景



写真 2 測量風景

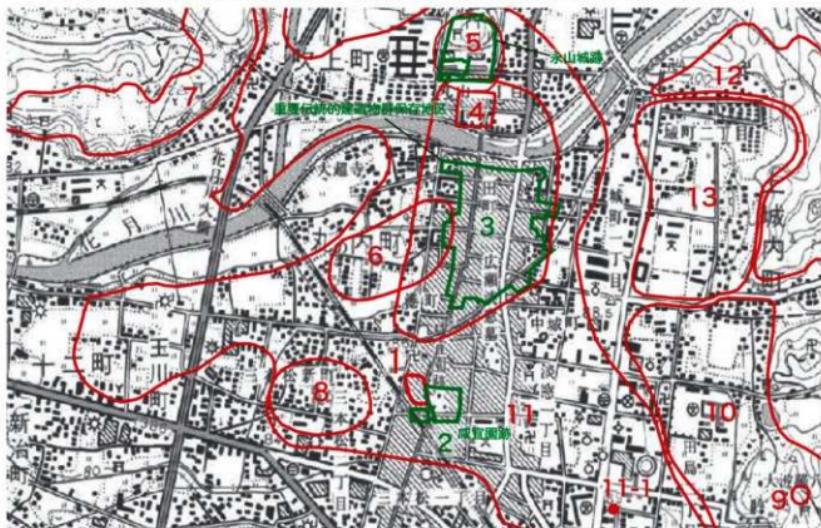
## II 遺跡の立地と環境

下中城遺跡は、日田盆地のほぼ中央、花月川と三隈川の河川作用によって形成された標高約 86 m の沖積地に位置する。

この下中城遺跡の周辺は、西に縄文時代から古墳時代の遺物が確認された瀧ヶ本遺跡(8)、北側の台地上には、弥生時代を通じて日田の拠点的な集落と、その支配者層のものと考えられる特定集団墓が発見された吹上遺跡(7)が所在し、調査地のすぐ北の沖積地上には、弥生時代後期から古墳時代の集落が確認された一丁田遺跡(6)が所在する。東の大波羅丘陵南斜面に古墳時代中期の円筒埴輪が出土した薬師堂山古墳(9)が所在し、古代においては、直径 30 cm 以上の大きな柱木が立たままの状態で建物群を囲むように並んで見つかった大型柱穴列、5 檻 × 2 檻の四面庇付き掘立柱建物などに加え、「山」「田」銘の墨書き土器や転用硯などが出土し、官衙関連施設と推測されている大波羅遺跡(10)が所在する。そして、日田条里遺跡(11)飛矢地区(11-1)では、その官衙関連施設との関係が想定される大型の溝が確認されており、これらの発見は、古代の官衙関連施設の広がりを考える上で貴重な成果であった。

このほか、北東には、中世大藏姓日田氏の居城であった大藏古城(12)とその眼下には中世の屋敷跡が広がる慈眼山遺跡(13)などが所在する。

また、近世においては、調査地の東に、江戸末期から明治期にかけて 4,000 人もの門下生を受け入れ、多くの著名人を輩出した私塾成宜園跡(2)。そして、北には天領日田の中心都市として江戸期から明治期以降も発展し、平成 16 年には国の重要伝統的建造物群保存地区として選定された豆田地区が所在し、その大部分は城下町遺跡(3)に含まれている。この城下町遺跡 1・2 次調査で発見された建物は幕末の絵図に描かれた豆田町の町年寄・中村平太夫の住宅であることが判明している。このほか、城下町遺跡の更に北側には、平成 28 年度に県の史跡指定を受けた永山城跡(5)、西国筋郡代の陣屋であった永山布政所跡(4)が所在する。



第 1 図 周辺遺跡分布図 (1/15,000)

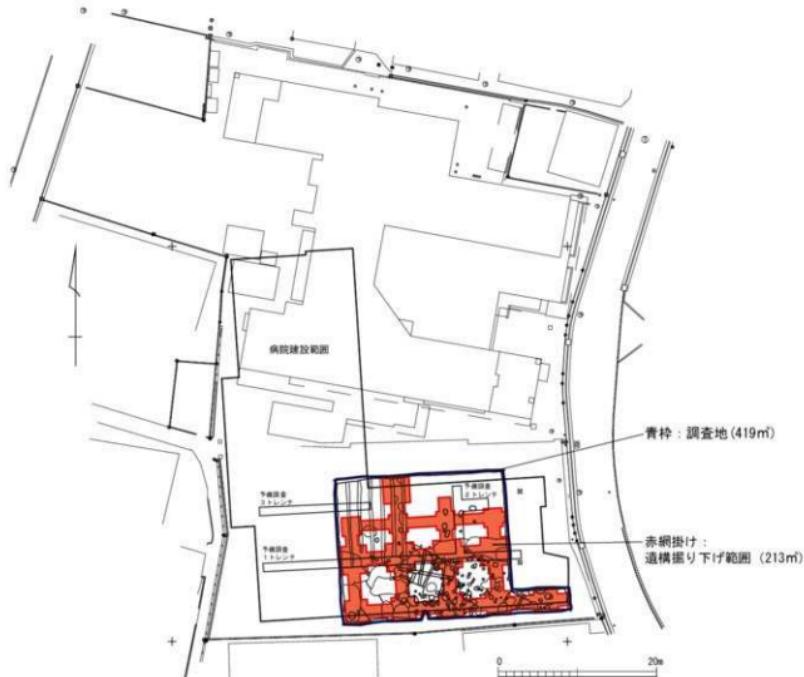
### III 調査の記録

#### (1) 調査の概要（第2図、写真図版1）

調査地は、大分県日田市淡窓2丁目300-1に所在し、標高約86mの微高地上に位置する。予備調査では、調査地の南東側において、現地表面からの深さ約30～50cmで竪穴建物、土坑、溝状遺構などが検出された。一方、調査地の西側から北側にかけては、大部分で礫層や砂層が検出され、遺構は確認されなかった。このことから、病院建設予定地のうち、遺構が所在する可能性の高い南東側を中心とした範囲(419m<sup>2</sup>)を調査対象とし、建物基礎によって遺構が破壊される範囲(213m<sup>2</sup>)を遺構掘り下げの対象範囲として調査を行った。

調査は、調査地北東側から重機により表土除去を行った。予備調査の結果どおり、南東側では耕作土直下の深さ30cm程度で黄褐色粘質土層が検出され（第3図）、この層を遺構検出面と判断した。遺構は、全体的に調査地中央からやや南東側に多くみられた。また、調査地の北側から北西側にかけては、遺構・遺物は確認されず、礫層が広がっている。最終的には竪穴建物3棟、柱穴列2列、溝状遺構1条を検出した。

以下、遺構および出土遺物の説明を行う。



第2図 調査地配置図 (1/600)



## (2) 遺構と遺物 (第3～11図)

### 豎穴建物 (第4～7図、写真図版1～3)

調査地全体で3種の豎穴建物を確認している。いずれも調査地中央と東側で検出されている。

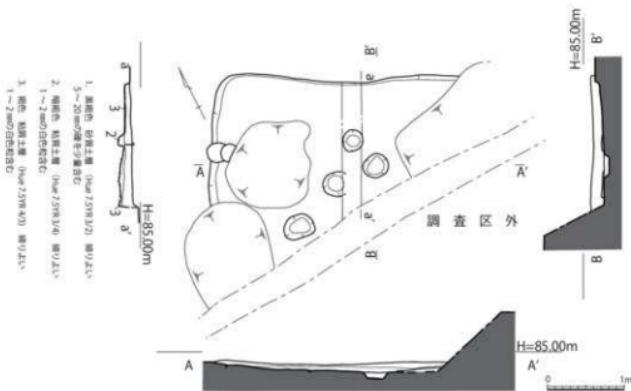
1号豎穴建物 (第4図、写真図版1) は調査地の東側に位置する。複数の擾乱に切られているのに加えて、南側半分は調査地外に延びている。規模は、南北約3.0m+ $\alpha$ 、東西約3.0+ $\alpha$ 、深さは約20cmを測る。平面形状は、検出状況から方形を呈すると考えられる。検出した範囲内で住居を示すような主柱穴などは確認できなかった。しかし、平面形状などから、この遺構は住居と想定している。

なお、出土遺物としては、弥生土器の小片のみで図示できるものは無かった。

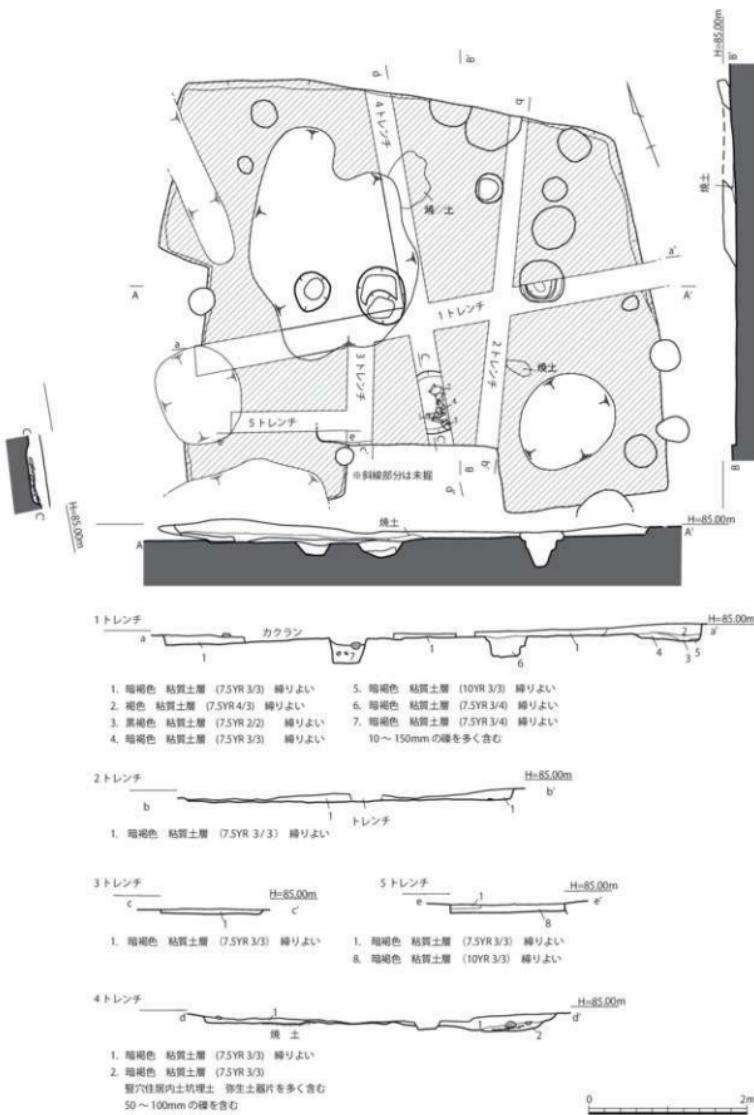
2号豎穴建物 (第5・6図、写真図版2) は調査地のほぼ中央に位置する。1号豎穴建物と同様、複数の擾乱によって切られている。規模は、南北約4.5m、東西約6.2mで深さは約10cmを測る。南側に2か所、西側に1か所張り出しがある。また、建物南側には土器を含む土坑がみられる。平面形状は、長方形を呈すると考えられ、豎穴中央部東西方向には深さ約20cmの柱穴があり、これが主柱穴になると想定される。なお、平面形状などから、この遺構は住居であったと想定される。

出土遺物 (第6図、写真図版6) は弥生土器の甕・壺が出土している。1～4は建物内で検出された土坑から出土している。5は赤色顔料の塗布されている甕で外面と内面口縁部に赤色顔料の痕跡が残る。時期については、くの字状口縁や平底の底部が多く出土していることや、2条の突帯が巡る破片なども出土していることなどから、弥生時代後期前半と想定しておきたい。

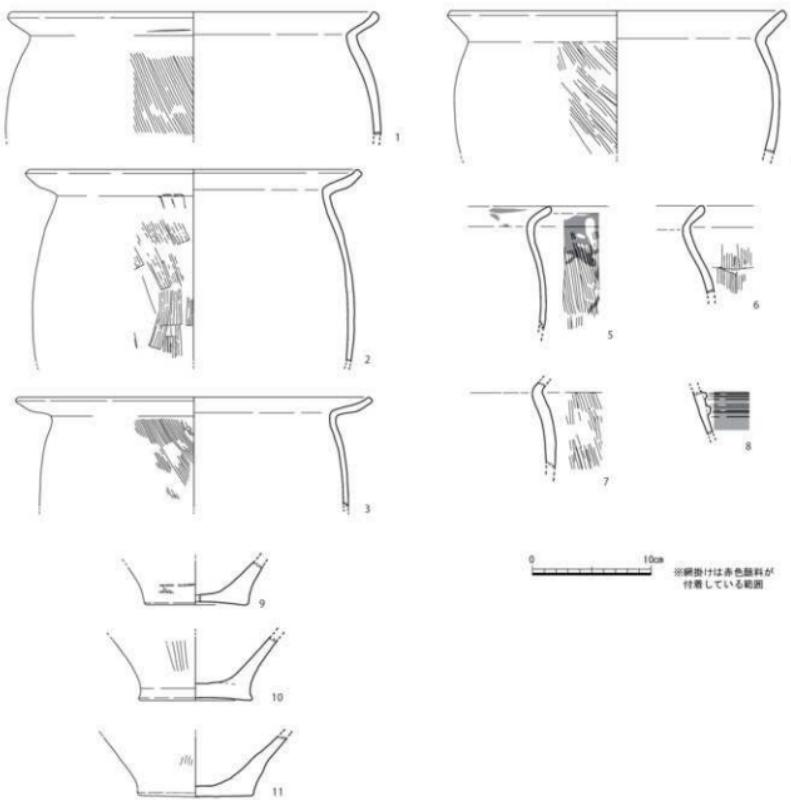
3号豎穴建物 (第7図、写真図版2) は調査地のほぼ中央部に位置し、2号豎穴建物に切られている。当初、2号豎穴建物の張り出し部と想定したが、平面検出時に切り合いがみられたこと、2号豎穴建物と軸が異なることから別の遺構と判断した。規模は、南北約2.0m、東西2.0m+ $\alpha$ で深さは約10cmを測る。東端に幅約30cm、深さ20cmの溝が巡る。検出した範囲内で住居を示すような主柱穴などは確認できなかった。



第4図 1号豎穴建物実測図 (1/60)



第5図 2号竖穴建物実測図 (1/60)



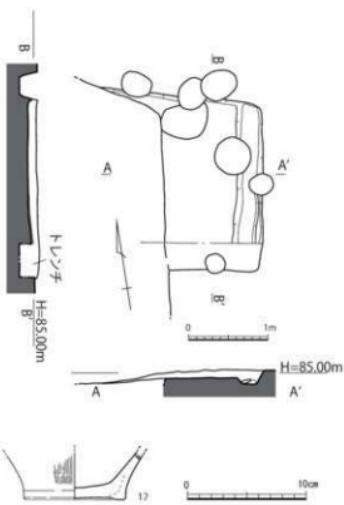
第6図 2号竖穴建物出土遺物実測図 (1/4)

出土遺物（第7図）は、甕の底部が出土している。時期については、2号竖穴建物から出土した遺物の時期とほぼ同時期の弥生時代後期前半頃と考えられる。

#### 柱穴列（第8・9図、写真図版3・4）

形状や埋土の状況などから柱穴とみられる小土坑が列を成している状況が調査地中央より南側で2列確認された。

1号柱穴列（第8図、写真図版3・4）は調査地南側で確認された柱穴2個である。北東側と北西側につづくようないかが確認されていないことから、調査地外である南北又は南東側に展開する可能性がある。柱間は1間で柱穴間の距離は約1.9m、平面形状は円形で直径は約60cm、深さは約45～55cmを測る。

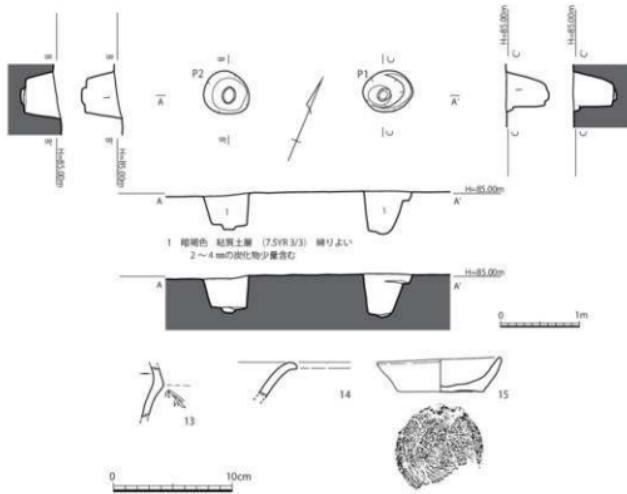


第7図 3号竪穴建物実測図 (1/60)  
及び出土遺物実測図 (1/4)

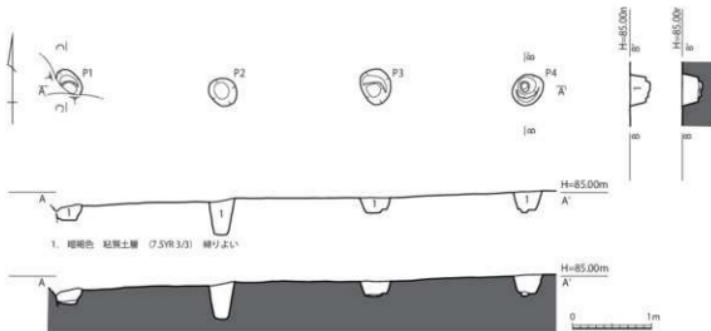
出土遺物（第8図、写真図版3・4）は、縄文土器鉢と土師器壺が出土している。14の土師器壺は口縁部のみ。15の土師質土器は、西側の柱穴（P2）の底部から正位置で出土している。底部は系切り、口縁部が内湾しながら立ち上がることから時期については、16世紀前半代を想定しておきたい。

2号柱穴列（第8図、写真図版4）は調査地南側で確認された柱穴4個である。東西方向と北側に続く柱穴が確認されなかったことから、南側に続く可能性がある。柱間は、3間で柱穴間の距離は約1.9m、調査地内での規模は心地距離で約5.8m、平面形状は円形で直径は約40～50cm、深さは約20～40cmを測る。また、この遺構から土師器の小片が出土しているが図示できるものはなかった。

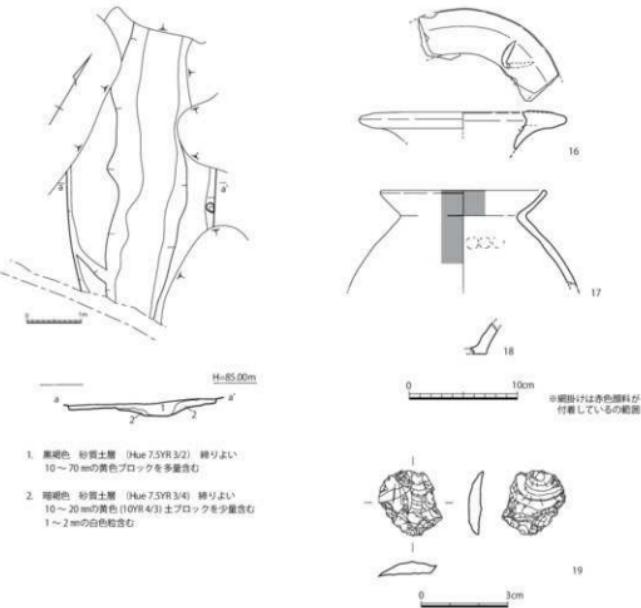
溝状遺構（第10図、写真図版5）は調査地の西側で検出した。北西から南東に伸びている。南東側は調査地外に続き、北西側は搅乱によって途切れている。規模は、長さ5.0m+α、最大幅約2.8m、深さは約25cmを測る。



第8図 1号柱穴列実測図 (1/60) 及び出土遺物実測図 (1/4)



第9図 2号柱穴列実測図 (1/60)



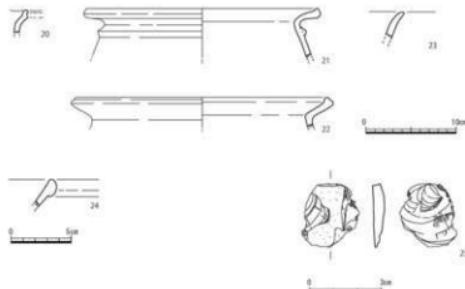
第10図 溝状造構実測図 (1/80) 及び出土遺物実測図 (16~18: 1/4, 19: 3/2)

出土遺物（第10図、写真図版6）は弥生土器の甕・壺が出土している。16は鋸先状口縁を呈し、口縁平坦部にV字状の浮文を貼り付けている。17は内外面に赤色顔料が塗布されている。19は黒曜石製の使用痕剥片である。

#### その他の遺物（第11図、写真図版4）

土坑は、調査地全体で多数確認されている。これまでの遺構と同様に調査地中央から南東にかけて多く確認されており、北側から北西側にかけて広がる疊層ではほとんど見られない。また、複数の土坑から遺物の出土はあるものの、遺構かどうかは判断できなかった。また、柱穴列となるような小土坑もこれまで報告した柱穴列以外では確認できなかった。

遺物は、検出時に出土したものと合わせて縄文土器鉢、弥生土器甕、白磁碗、黒曜石製の使用痕剥片などが出土壤している。



第11図 ピット・検出時出土遺物実測図 (1～5:1/4、6:1/3、7:2/3)

第1表 調査出土土器観察表

| 種別<br>番号 | No. | 出土遺構         | 種別   | 器種 | 法量(cm) |       |       | 調整  |    | 胎土          | 焼成        | 色調              |          |            | 備考       |                   |
|----------|-----|--------------|------|----|--------|-------|-------|-----|----|-------------|-----------|-----------------|----------|------------|----------|-------------------|
|          |     |              |      |    | 口径     | 器高    | 底径    | 脚部径 | 内面 |             |           | 内面(裏)           | Hue      | 外面(表)      |          |                   |
| 第6図      | 1   | 2甕<br>4トレンチ1 | 弥生土器 | 甕  | (30.4) | 10.46 | -     | -   | ナデ | ハケ後ナデ       | A+B+E+D   | 良<br>にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  | にぶい褐<br>色  | 7.5YR7/4 |                   |
| 第6図      | 2   | 2甕<br>4トレンチ4 | 弥生土器 | 甕  | (27.8) | 16.14 | -     | -   | ナデ | ナデ後ハケ       | A+C+E+D   | 良<br>にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  | にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  |                   |
| 第6図      | 3   | 2甕<br>4トレンチ3 | 弥生土器 | 甕  | (29.4) | 9.30  | -     | -   | ナデ | ハケ後ナデ       | H+A-C-D-E | 良<br>にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/3  | にぶい褐<br>色  | 7.5YR5/3 |                   |
| 第6図      | 4   | 2甕<br>4トレンチ4 | 弥生土器 | 甕  | (27.0) | 12.10 | -     | -   | ナデ | 工具ナデ後<br>ハケ | C+A+B     | 良<br>にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  | にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  |                   |
| 第6図      | 5   | 2甕           | 弥生土器 | 甕  | -      | 10.40 | -     | -   | ナデ | 縦方向ハケ       | H+C+A     | 良<br>灰黃褐色       | 10YR5/2  | 暗赤褐色       | 5YR3/6   | 外面は被熱により<br>スカ付着。 |
| 第6図      | 6   | 2甕           | 弥生土器 | 甕  | -      | 5.10  | -     | -   | ナデ | 縦方向ハケ       | A+C+E     | 良<br>灰黃褐色       | 10YR5/2  | 灰黃褐色       | 10YR5/2  |                   |
| 第6図      | 7   | 2甕           | 弥生土器 | 甕  | -      | 7.40  | -     | -   | ナデ | 縦方向ハケ       | A+C+H     | 良<br>浅黄色        | 2.5YR7/3 | にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/4  |                   |
| 第6図      | 8   | 2甕           | 弥生土器 | 甕  | -      | 3.60  | -     | -   | ナデ | 横方向ナデ       | A+C+E     | 良<br>にぶい赤<br>褐色 | 5YR5/4   | にぶい赤<br>褐色 | 5YR4/4   |                   |
| 第6図      | 9   | 2甕           | 弥生土器 | 甕  | -      | 3.70  | (8.3) | -   | ナデ | 縦方向ハケ       | H+C+A     | 良<br>にぶい黄<br>褐色 | 10YR7/2  | 明赤褐色       | 5YR5/8   | 内面底部に黒斑有          |

| 排列番号 | No. | 出土遺構  | 種別    | 器種 | 法量 (cm) |        |       | 調整 |         | 胎土      | 焼成             | 色調     |        |          | 備考     |                    |
|------|-----|-------|-------|----|---------|--------|-------|----|---------|---------|----------------|--------|--------|----------|--------|--------------------|
|      |     |       |       |    | 口径      | 底高     | 底径    | 内面 | 外面      |         |                | 内面 (裏) | Hue    | 外面 (表)   |        |                    |
| 第6回  | 10  | 2層    | 陶生土器  | 壺  | -       | 5.40   | 9.4   | -  | ナデ      | 縦方向ハケ   | A・C            | 良      | 黒褐色    | 5YR3/1   | 稻食     | 5YR6/6             |
| 第6回  | 11  | 2層    | 陶生土器  | 甕  | -       | (5.00) | 9.5   | -  | ナデ      | タテハケ後ナデ | H・C・A・B        | 良      | に赤い黄褐色 | 10YR7/3  | 稻色     | 5YR6/6             |
| 第7回  | 12  | 3層    | 陶生土器  | 甕  | -       | 4.00   | (8.0) | -  | ナデ      | 縦方向ハケ   | E              | 良      | 褐灰色    | 10YR5/1  | に赤い褐色  | 7.5YR6/4           |
| 第8回  | 13  | 1柱 P1 | 織文土器  | 鉢  | -       | 4.40   | -     | -  | ナデ      | ナデ      | A・E・D<br>金雲母   | 良      | 灰褐色    | 7.5YR4/2 | に赤い褐色  | 7.5YR6/4           |
| 第8回  | 14  | 1柱 P2 | 土師器   | 壺  | -       | 3.00   | -     | -  | 横ナデ     | 横ナデ     | A・C・E          | 良      | 浅黄褐色   | 10YR6/3  | 浅黄粉色   | 10YR8/3            |
| 第8回  | 15  | 1柱 P2 | 土師質土器 | 壺  | 10.2    | 2.70   | 7.7   | -  | ナデ      | 系切り     | A・C・E・D<br>金雲母 | 良      | に赤い黄褐色 | 10YR7/3  | に赤い黄褐色 | 10YR7/3            |
| 第10回 | 16  | 1溝 1層 | 陶生土器  | 壺  | (13.0)  | 1.50   | -     | -  | 横ナデ     | 横ナデ     | A・C・E・D        | 良      | に赤い褐色  | 7.5YR6/4 | に赤い褐色  | 7.5YR6/4           |
| 第10回 | 17  | 1溝 1層 | 陶生土器  | 甕  | (15.0)  | 9.00   | -     | -  | ナデ・指押さえ | 横ナデ     | A・C・B          | 良      | 褐色     | 2.5YR4/6 | 明赤褐色   | 2.5YR5/6 内外面に赤色顔料  |
| 第10回 | 18  | 1溝 1層 | 陶生土器  | 甕  | -       | 2.90   | -     | -  | ナデ・指押さえ | ナデ      | A<br>金雲母       | 良      | 稻色     | 7.5YR6/6 | 稻色     | 7.5YR6/6           |
| 第11回 | 20  | 掘乱    | 織文土器  | 鉢  | -       | 2.50   | -     | -  | ナデ      | ナデ      | B・A            | 良      | に赤い黄褐色 | 10YR6/4  | に赤い黄褐色 | 10YR6/4            |
| 第11回 | 21  | 椚出    | 陶生土器  | 甕  | (25.4)  | 5.40   | -     | -  | 横ナデ     | 横ナデ     | A・C            | 良      | 明赤褐色   | 2.5YR5/8 | 明赤褐色   | 2.5YR5/8 内外面に赤色顔料  |
| 第11回 | 22  | 椚出    | 陶生土器  | 甕  | (28.0)  | 3.30   | -     | -  | 横ナデ     | 横ナデ     | D・A            | 良      | 浅黄褐色   | 10YR8/3  | に赤い黄褐色 | 10YR7/4<br>10YR6/5 |
| 第11回 | 23  | P-1   | 陶生土器  | 鉢  | -       | 3.10   | -     | -  | 横ナデ     | 横ナデ     | A・C・E          | 良      | に赤い黄褐色 | 10YR5/4  | に赤い黄褐色 | 10YR5/4            |
| 第11回 | 24  | 掘乱    | 白磁    | 瓶  | -       | 2.30   | -     | -  | -       | -       | 精緻             | 良      | 灰白色    | 5Y7/2    | 白白色    | 5Y7/2              |

法量の単位はcm。○書きは、残存と復原を表す。

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黑色粒子 G雲母 H砂粒

第2表 調査出土石器観察表

| 排列番号 | No. | 出土遺構 | 器種    | 法量 (cm) |      |      | 重さ (g.) | 材質  | 備考 |
|------|-----|------|-------|---------|------|------|---------|-----|----|
|      |     |      |       | 最大長     | 最大幅  | 最大厚  |         |     |    |
| 第10回 | 19  | 1溝   | 使用痕剥片 | 2.25    | 2.20 | 0.40 | 2.1     | 黒曜石 |    |
| 第11回 | 25  | 掘乱   | 使用痕剥片 | 2.65    | 2.35 | 0.50 | 2.9     | 黒曜石 |    |

## IV まとめ

今回の発掘調査では、前章までみてきたように、調査地内で竪穴建物3基、柱穴列2列、溝状遺構1条を発見した。本調査で検出された遺構の時期については、各遺構の出土遺物からその所属時期を想定していく。

検出された遺構は、弥生時代後期前葉と中世の大きく2時期が想定され、竪穴建物と溝状遺構が弥生時代後期前葉の時期、柱穴列が中世時期の可能性が考えられる。

また、柱穴列の埋土から繩文時代後期後葉の鉢片が出土していることから、調査地及びその周辺に繩文時代の遺構が存在していたことが窺えた。

以下、今回の調査をまとめる。

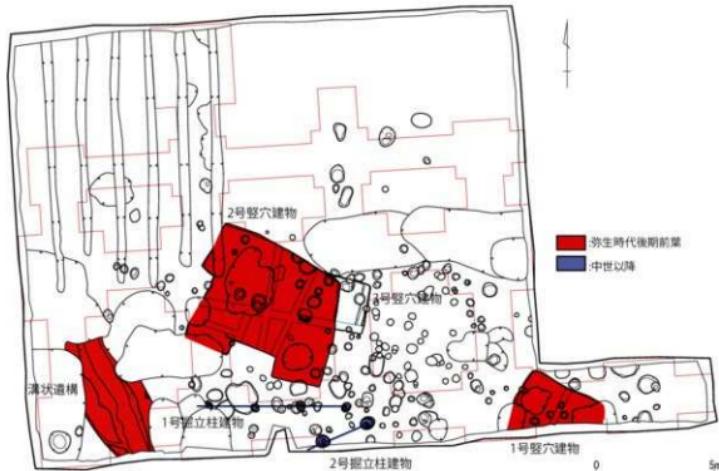
今回の調査地で検出された遺構は、そのほとんどが南東側に集中しており、西側には礫層が広がっている。また、予備調査の結果などから調査地の更に北側でも礫層が広がることが確認されている。こうした状況から調査地周辺の旧地形は、北西側よりも南東側が高く、微高地が広がっていると想定される。

そして、南東側に遺構が集中していることから、この微高地は弥生時代後期以降に集落として利用されていたと考えられる。また、調査地の北から北西にかけて遺構が存在しないことから、この辺りが集落の境であった可能性も考えることができる。

今回の調査地は、近世最大の私塾である成宣園の北西隣に位置しているが、成宣園に関するような近世の遺構を確認することは出来なかった。しかし、成宣園が開塾する以前の周囲の状況を考える上で貴重な成果があったといえる。

参考文献

- 渡邊隆行 2014 「調査結果・日田市域の弥生土器の変遷と吹上遺跡出土土器の特色」『吹上遺跡誌』日田市埋蔵文化財調査報告書 第112集  
渡邊隆行 2010 「基原山遺跡7次」日田市埋蔵文化財調査報告書 第95集



第12図 遺構変遷図(1/200)



調査地全景（西から）



1号竪穴建物発掘状況（北から）



1号竪穴建物発掘状況（東から）

写真図版 2



2号竪穴建物発掘状況（北から）



2号竪穴建物発掘状況（南から）



2号竪穴建物遺物出土状況



3号竪穴建物発掘状況（南から）



1号柱穴列発掘状況（北から）



1号柱穴列発掘状況（東から）

写真図版 4



1号柱穴列西側土層断面状況（南から）



1号柱穴列西側遺物出土状況



2号掘立柱建物発掘状況（北から）



溝状遺構発掘状況（北から）



調査地南壁土層



調査区東壁土層

写真図版 6



1



4



5



8



10



16



11



15



17



21

出土遺物

## 報告書抄録

|        |  |
|--------|--|
| ふりがな   | しもなかじょういせき   |
| 書名     | 下中城遺跡  |
| 副書名    |  |
| 卷次     |  |
| シリーズ名  | 日田市埋蔵文化財調査報告書  |
| シリーズ番号 | 第139集  |
| 編著者名   | 上原 翔平  |
| 編集機関   | 日田市教育庁文化財保護課   |
| 所在地    | 〒877-8601 日田市田島2丁目6番1号（電話：0973-24-7171、FAX：0973-24-7024） |
| 発行機関   | 日田市教育委員会   |
| 所在地    | 〒877-8601 日田市田島2丁目6番1号                                   |
| 発行年月日  | 2020年3月6日  |

| 所取遺跡名 | 所在地                  | コード     |        | 北緯          | 東経          | 発掘期間              | 発掘面積               | 調査原因       |
|-------|----------------------|---------|--------|-------------|-------------|-------------------|--------------------|------------|
|       |                      | 市町村     | 遺跡番号   |             |             |                   |                    |            |
| 下中城遺跡 | 大分県日田市<br>淡窓2丁目300-1 | 44204-6 | 204382 | 33° 19' 22" | 130° 56' 3" | 170627～<br>170924 | 416 m <sup>2</sup> | 記録保存<br>調査 |

| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代     | 主な遺構             | 主な遺物       | 特記事項 |
|-------|----|----------|------------------|------------|------|
| 下中城遺跡 | 集落 | 弥生<br>中世 | 竪穴建物・溝状遺構<br>柱穴列 | 弥生土器、土師質土器 |      |

|    |   |
|----|---|
| 要約 | 下中城遺跡は、日田盆地のほぼ中央、三隈川と花月川の河川作用によって形成された標高約86mの沖積地に位置する。                  |
|    | 今回の調査では、竪穴建物・柱穴列・溝状遺構などが確認され、その時期については、大きく弥生時代後期前半と中世の2時期に分けられる。        |
|    | また、調査地の旧地形は、周辺の状況などから、その南東側に微高地が広がっていたとみられ、その微高地上を選定し、集落が形成されていたと考えられる。 |

### 下中城遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第139集

2020年3月6日

編集 日田市教育庁 文化財保護課  
 877-8601 大分県日田市田島2丁目6番1号

発行 日田市教育委員会  
 877-8601 大分県日田市田島2丁目6番1号

印刷 日田時報紙器印刷株式会社  
 877-0086 大分県日田市二串町345-3



日田市